

説得的メッセージの文末形式や説得者が説得効果に与える影響

1220567 森田 健斗

指導教員 三船恒裕

研究背景

神尾（1990）やHiggins（1981）、伊藤・岡本（2007）の研究から、説得者の関与と文末表現との一致は説得場面において説得効果に影響を与えることが示されている。また伊藤・岡本（2007）では、専門性高条件においても直接形より間接形を使用する方が説得者の印象やメッセージに対する評価が高まることが報告されている。しかし、伊藤・岡本（2007）では説得者の専門度に条件差が見られず、操作が不十分であった可能性が示されている。

研究目的

伊藤・岡本（2007）の研究をもとに、先行研究で条件差が全く見られなかった「説得者の専門性」に関与する説得者の専門性の操作に関してのみ変更を加え、その項目以外は同じ条件にして追試実験を行う。

調査・分析方法

オンラインアンケート調査ツール「Qualtrics」によって質問紙を作成し、それを用いて高知工科大生を対象に調査を実施した。質問紙は、説得者の関与度（説得者の専門性：高・低）、メッセージの論拠の質（内容のもっともらしさ：強・弱）、文末形式の一致・不一致（直接形・間接形）の3つの独立変数をそれぞれ操作した8種類のをランダムに提示することで被験者を各実験条件に割り当てた。説得的メッセージを被験者に注意深く読ませたのち、態度の測定を行った。

分析結果

説得効果の一つである卒業試験導入への賛成度について専門性の主効果が見られ、専門性低条件である学生の方が高い結果を示した。説得者に対する印象についてたずねた項目では、信頼度、専門度、好ましさのすべてで専門性の主効果が見られた。この項目においても専門性低条件である学生の方が高い結果を示している。「間接形の使用が説得者に対する印象やメッセージに対する評価を高める」という仮説は支持されなかった。

考察・結論

メッセージに対する評価や説得者に対する印象の項目について専門性の主効果が見られていたが、いずれも専門性低条件の方が高い結果を示していた。これは被説得者である学生が非専門的な説得者に対して内集団ひいきを示した可能性が考えられる。しかし本研究では被説得者の年齢を測定していなかったため、今後の研究では年齢も測定することで被説得者が説得者に対して内集団ひいき行動をもたらし、それによる影響を受けていたのか検討する必要がある。